

普及活動情勢報告（平成30年12月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

農業現場での『カイゼン』の取り組み ～花き栽培経営体の『カイゼン』コンサル現地調査～



選花作業の状況確認

11月21日、管内の花き栽培経営体の作業場で『カイゼン』コンサルタントによる今年度2回目の現地調査を行い、モデル経営体、環境農業推進課、農業改良普及課より9名が参加しました。今回は出荷繁忙期の作業場での選花、荷造りの状況について確認とアドバイスを受け、経営体も作業改善へ意欲的に取り組んでいます。

現地調査の後、意見交換では、コンサルから作業工程の『カイゼン』提案を受け、実証してみることにになり、12月5、12日に実践しました。

農業改良普及課は、今後もモデル経営体の『カイゼン』に向けた提案を通じて経営改善の支援をしていきます。

キュウリの安定生産に向けて ～現地検討会を開催～



説明を聞く生産者

12月12日、須崎市内現地圃場でキュウリの生産者20名が参加し、環境制御技術、I P M技術の現地検討会を開催しました。環境制御技術の基礎である光合成と温度管理についてと実証試験の途中経過、ハウス周辺のアザミウマ類発生状況について説明しました。

今年は11月後半以降、気温が高く低日照の日が続いており、生産者からの「死に果が多い。栽培管理が難しい」という声に対し、厳寒期の栽培環境の整え方、純光合成を高めるための温度管理の考え方を説明し、温度管理を日射量に応じて変化させる必要があることが理解されました。また、ハウス周辺の雑草でミナミキイロアザミウマの生息が確認されたことを伝え、周辺雑草の除草の大切さが徹底されました。

農業改良普及課は、今後もキュウリの安定生産に向けて環境制御技術とI P M技術について、現地検討会や勉強会を通じて普及に取り組み、農家のレベルアップに繋げていきます。

ガイドライン準拠高知県版GAPの推進



GAPの説明中

JA土佐くろしおでは、これまでのくろしお版GAPから移行して、平成31園芸年度からはガイドライン準拠高知県版GAP（以下、準拠版GAP）に取り組むことになりました。

そこで農業改良普及課では、12月3日と5日に行われたJA土佐くろしおインゲン部会の目慣らし会において、参加した生産者33人に対し、促成インゲンの出荷が本格化するのを機にGAPに取り組み、より高品質で安心・安全なインゲンの生産を目指そうと周知しました。

生産者からはGAP点検シートの記入方法について質問があり、GAPの実践について理解を深めたようでした。

農業改良普及課は今後も、JA土佐くろしおの各品目の部会活動や巡回を通じて、準拠版GAPの取り組みを進めていきます。

収穫労力や栽培の省力化を目指して！ ～インゲン1条植えの試験を実証中～



収穫作業を撮影する様子

JA土佐くろしおのインゲン栽培では、現在2条植えが主流ですが、農業改良普及課では収穫作業等の負担軽減をねらって、1条植えの試験をしています。

今回は、収穫作業にかかる時間や作業のしやすさ等を比較するため、12月の収穫期における農家の作業の様子をビデオで撮影しました。

撮影を通して、1株あたりの収穫にかかった時間を農家に伝えると、1条植えの収穫しやすさを改めて感じたようです。

農業改良普及課では、今後もビデオ撮影を定期的に行い、収量と作業時間などを把握しながら、1条植え栽培を検証していきます。

おおのみエコロジーファーマーズ、コンクールを知る～米・食味分析鑑定コンクール視察～



一次選考で落選、次こそは！

今年度、おおのみエコロジーファーマーズが挑むお米のコンクールの1つ「米・食味分析鑑定コンクールin飛騨」が11月26～27日に開催され、関係者5名で視察しました。

残念ながら、このコンクールに出品したお米は、一次選考で落選となりましたが、この視察を通じて、コンクールで金賞を獲得したお米との違いを分析値や直接見比べをしたりすることができ、また関係者との情報交換を通じて、今後のお米づくりに意欲が出てきたように感じます。

今後、農業改良普及課は、次年度の水稲作付けについての栽培管理見直しなどをサポートし、引き続きコンクールへの出品・入賞に向けて関係機関とともに支援していきます。

愛媛県の集落営農事例を勉強！～津野町集落営農先進地視察～



視察の様子

現在、農業改良普及課は、津野町と連携して新たな集落営農の動きに結びつけるため集落の掘り起こしをしています。

その一環として、11月28日に津野町主催で集落営農先進地視察を開催し、中山間直払の代表者など20名が参加しました。

視察先は、愛媛県西予市の「加茂ファーム」で、昭和57年からいち早く集落営農に取り組み、現在1集落1法人へと発展した組織です。参加者からは、「もっと法人運営について聞きたい。」「次世代の担い手はどうやって確保しているのか？」といった質問や意見があり、集落でまとまる取り組みについての理解が深まったと感じました。

今後、農業改良普及課は、津野町と連携し、集落営農の取り組みを進めていきます。

島根県における水稻事情・集落営農事情を研修！～集落営農塾先進地視察研修～



視察の様子

島根県東部における中山間地域及び平野部での水稻を主体とした集落営農法人の取り組みを視察するため、集落営農塾先進地視察研修を12月10～11日で計画し、管内の集落営農組織のメンバーなど、合計10名で実施しました。

（農）フレッシュファーム神代（雲南市）、（農）カサーレ出雲郷（松江市）の2法人を視察。それぞれ組織役員をはじめ、県や市、JAなど関係機関の方も参加いただき、水稻経営に係る意見交換や関係機関の支援体制についての質疑応答などができ、参加者からも大変勉強になったという感想が聞かれるなど、実り多い視察となりました。

農業改良普及課は、今回の視察研修事例も関係者に情報提供していくと共に、引き続き管内の集落営農の推進を図っていきます。

出荷量の拡大に向けて ～加工用ワサビの生育状況を関係機関合同で確認～



業者とともに生育状況を確認

12月10日、津野山地域（桝原町・津野町）の加工用ワサビを栽培する4戸の圃場を、販売先の業者・高知県園芸連・JA・振興センターと巡回しました。これは11月中～下旬に定植されたワサビの生育状況を全体で確認するためです。今年は育苗方法を少し変えた方法と慣行とで植え分けており、生育の違いについても合わせて確認しました。前年よりも苗の状態は良く、寒さによる植え痛みもほとんど無く、順調な生育をしていました。

農業改良普及課は、全戸で生育調査を実施しており、前年を上回る出荷量を目標に今後も指導を続けていきます。

厳寒期のニラ栽培管理について ～現地検討会を開催～



ニラは場の様子

12月18日、JA土佐くろしおのニラ生産者16名を対象に、現地検討会が開催されました。

農業改良普及課からは、厳寒期の温湿度・かん水・追肥の管理およびネギアザミウマと白斑葉枯病の防除対策について説明を行いました。管内では、冬期の白斑葉枯病による被害が毎年多く発生しており、急激な温度変化による結露を防ぐことで被害の軽減を図ることを周知しました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力してニラ安定生産のための支援を行っていきます。